

見つけよう！ 冬越しのヒミツと謎

高橋 節（松戸市）

日 時：2010年1月30日（土）

場 所：21世紀の森と広場（松戸市）

企画・実施：千葉県自然観察指導員協議会

参加者：子ども5名 大人36名 計41名 指導員10名

担当指導員：池田稔夫 大木陽子 河添寿子 薮正雄 渋谷孝子 高橋 節

田中玉枝 瀬谷 昭

今回の観察会は「緑に関する普及啓発事業」の中のひとつで、いつも小学校の観察会をなさっている松戸の小学校自然観察支援ネットワークのグループに、いつもの内容で一般の方々に観察会をしてくださいと、お話しをいただき、実施いたしました。常盤平小学校と貝の花小学校の観察会を終えてすぐの日程でしたので、無理なく観察会を実施できました。

小学校のバージョンを一般の方に、大人の目線でなく子供の目線で公園の自然を感じてもらうことを目的として行いました。遠景もベージュがかっているその中、頑張っている常緑樹。枯れているように見える樹木も春の芽吹き準備をされていて、赤い冬芽をつけたミズキ。毛皮のコートを着たコブシの樹。落葉樹の葉を落としたあとの葉痕には管の痕がある。それは春から夏の間、根から水を吸い上げて葉で養分を作り、根に送る管の痕で、私達にいろいろな動物の顔を想像させる。植物はそれぞれに知恵を絞り、種子をとばしたり、人や動物に付いて遠くに移動したり、風に乗って運ばれたりもする。また、ロゼットという形体で陽の光をたくさん浴び、暖かくなったら一番で成長するように工夫しているものもある。

そして虫は、ジョロウグモとカマキリの卵のうから、いかに鳥に卵を発見されず、食べられないように産卵場所や位置を工夫しているか。

鳥では、冬鳥はどうしてここにいるのかを考え、鳥の体の仕組みなどを観察した。スズメクイズでは、普段みなれているスズメで足やくちばしなど、違う鳥の部分を見つけてもらい、固定観念でものを見ていることに気付いてもらいました。カラス・スズメの頭骨で鳥が飛べるのは体が軽いこと、また軽くする工夫をしているのが分かる。

今回の自然観察会で私達の活動は、子どもたちに生き物を通して生命の繋がりに気付いてもらい、自然を大切に思う心を育てることを目的としていることを理解していただいた。

<終了後のアンケートからの感想>

冬枯れというけれど自然は豊かに息づいている。

見る目を持てみればいろいろなものがわかる

植物や生き物の生き残りのための知恵がわかりました。

思っていた以上に、子どもといっしょに楽しめました。

今回の観察会を開催するにあたって、多くの広報活動などご協力いただきました。また、参加申し込みの方が多く、一般の方を優先としたので早くから申し込んでいた東葛しぜん観察会の会員や指導員の方々に辞退していただくこともありました。おかげさまで、私達の活動目的である子どもたちに親子で体験してもらう機会を設けることができました。有り難うございました。協議会より河添さんのお手伝いもいただき、私達の実際の活動をみていただけたことがとても良かったと思っています、ありがとうございました。

